

2022年度

国名 留学報告書

実習先：ニュージーランド国立ワイカト大学

実習期間： 9月18日 ～1月20日

新潟国際情報大学

国際文化学科

学籍番号：21020066

氏名： 田中雅

目次

1. 留学先及び実習期間
2. 留学先概要
3. 留学目的
4. 留学内容
 - 4-1. 留学スケジュール
 - 4-2. 留学の詳細
5. 当初目的・目標への達成
6. 反省点・課題
7. 謝辞
8. 留学日誌

1. 留学先及び実習期間

留学先：ニュージーランド国立ワイカト大学

実習期間：2022年9月18日（日）～2023年1月20日（金）

※出国は2022年9月17日（土）、帰国は2023年1月21日（土）

2. 留学先概要

（1）大学について

ニュージーランド国立ワイカト大学（THE UNIVERSITY OF WAIKATO）は、北島のハミルトン市にある国立総合大学である。65ヘクタールもの広大なキャンパスには3つの池があり、その周りを色とりどりの花や木々が取り囲む、自然と調和した素晴らしい環境に位置している。ワイカト大学の学生数12,000人のうちおよそ2,000人が留学生で、その出身は88カ国にも及ぶ国際的な環境が特徴である（2021年情報）。キャンパス内には、カフェやスポーツジム、郵便局など様々な施設が用意されている。診察所もあるので、体調を崩したときは病院を探す必要なく利用することができる。

（2）大学で行われている教育について

ワイカト大学の留学プログラムは3つに分かれている。本学の派遣留学生は、General English（一般英語）とAcademic English（アカデミック英語）という2つのコースを履修した。留学前にリスニング、リーディング、ライティングの3つのテストを受け、クラス分けを行い、少人数で授業を行う。General Englishでは、リーディングや文法という学問的な勉強もあるが、ペアやグループで会話をする機会も多い。一方で、Academic Englishはリスニングやリーディング、ライティング、文法、プレゼンテーションなど、よりアカデミックなスキルを学ぶことができる。General Englishに比べ、会話をする機会がやや少なくなる。8段階のレベルに分かれているためレベルに合ったクラスで勉強することができる。1クラス10人程度だった。日本人以外にも、中国人、ロシア人、サウジアラビアなどの留学生も同じ授業を受けた。

3. 留学目的

留学の主な目的は語学力全体の向上である。留学に行った場合、基本的には日本語を使ってコミュニケーションを取ることができない。そのような環境に身を置くことで、自分自身が相手とコミュニケーションを取るために積極的に英語を使うようになる。そうすることで自然とリスニング、スピーキングという2つの分野のスキルを大きく伸ばすことができる。それと同時に、日本とは違う価値観や習慣、文化などをホームステイという実際に現地の家族と一緒に生活することで知ることが

できると考えた。自分自身の英語力が現状どの程度海外で使うことができるのかということを知りたいと思った。主にこのような理由から留学を決意した。

4. 留学内容

4-1. 留学スケジュール

留学期間中のスケジュールは以下の通りである

月	日	曜日	内容
9月	17日	土	15時45分 成田空港第一ターミナル集合 18時30分 発着
	18日	日	8時00分 オークランド空港到着 バスでワイカト大学へ移動→抗原検査 12時30分 ホストファミリーと合流
	19日	月	大学説明&インターナショナルオリエンテーション
	20日	火	General English コース開始
	23日	金	抗原検査 (陰性の場合マスクを外しても良い) 13時~15時30分 Campus Treasure Hunt
	26日	月	Queen Elizabeth Memorial Day (NZ Public Holiday)
	28日	水	中国文化体験イベント
	30日	金	日本文化体験イベント
10月	1日	土	Hobbiton Movie Set Tour
	8日	土	Waitomo Glowworm Caves Tour
	10日	月	放課後 マオリ文化についての勉強
	11日	火	放課後 マオリ文化についての勉強
	21日	金	ハロウィンパーティー
	24日	月	Labor Day (NZ Public Holiday)
	25~ 27日	火~ 金	Academic English Orientation Week
	31日	月	Academic English コース開始
12月	29~ 12月 2日	火~ 金	テスト期間 29日(火) Writing Test 30日(水) Speaking Test 12月1日(木) Listening Test 2日(金) Reading Test
	17~ 1月3 日	土~ 火	Christmas & New Year Holiday
1月	17~	火~	テスト期間

20日	金	17日(火) Writing Test 18日(水) Speaking Test 19日(木) Listening Test 20日(金) Reading Test 15時00分 オークランドへ出発、前泊
21日	土	6時ホテル出発、9時50分 NZ 発着 16時50分 日本到着

時間割

午前 9時00分～12時00分 10時30分から15分間休憩

昼休み 12時00分～13時00分

午後 13時00分～15時00分 2時00分から15分間休憩

※金曜日の午後のみ本学の学生全員が1つのクラスで授業 担当の先生は週代わり

4-2. 留学の詳細

〈授業概要〉

・ General English コース

教科書は購入せず、借りて授業を受けることができた。本学の授業の CEP の授業で使われる教科書と似ていた。リーディング、リスニング、基本的な文法を学んだ。パソコンを授業内で使うことはほぼなく、教科書やプリントを使うことが多かった。ペアやグループでのディスカッションが一日に何度もあり、英語を話す機会が多くあった。午後は集中力が続きにくいのでゲームをすることもあった。Kahoot! を使うときは単語クイズをやっていたので、テスト対策にもなり、単語力も身につけることもできた。10月の半ばにはプレゼンテーションがあった。課題は毎週ではなかったが、出されることもあった。教科書を使う課題とプリントの課題があった。

・ Academic English コース

Academic English では教科書を1冊購入した。授業は General English と比べ、よりライティングやリスニング、文法のような教科書やノートを使う勉強が増えた。ディスカッションは毎日あったが、General English よりも時間が短く、トークテーマも難しくなっていた。12月初めにはプレゼンテーションがあった。General English との大きな違いは、環境のために紙を使わず、できる限りパソコンを使用した授業が行われていた。毎日パソコンを学校に持っていき、授業で使っていた。主に Moodle というワイカト大学のサイトを使っていた。Moodle はポータルサイトのようなもので、提出物の管理のために使っていた。それだけでなく、Moodle は教科書と連携されている問題があり、各ユニットの単語や文法問題などがアップロードされていた。教科書のユニットが終わり次第、個人で復習やテスト勉強として使用することが多かった。授業内でも Moodle をやる時間が設けられていた時もあった。他にも、本を読む時間や、週に1回 Self-Study

という時間があった。Self-Study では 1 時間半の間、図書館に行き、Moodle など各自で勉強に取り組む時間である。課題は週にまとめて出されていて、それぞれの課題の提出日の期限にあわせて個人で計画的に進めていかなければならなかった。課題は毎週出されていて、教科書を使うときもあったが、基本的にはパソコンを使う課題が多くあった。

5. 当初目的・目標への達成度

留学の目的は英語スキル全体の向上だった。自分でもわかるほどスピーキングのスキルは向上した。特に、留学前に比べ、外国人に気軽に話すことができるようになった。以前は文法や単語など正しくなければ使いたくないと考えることが多かったが、細かいことを気にせず話す勇気をつけることができた。確かに、文法など正しい英語を使うことはとても大切なことではあるが、外国人と話す勇気もとても大切だと思う。留学期間のみで第一言語として英語を扱う人と同じになることはかなり難しいが、その人たちと間違った文法でもいいからコミュニケーションを積極的にとろうとしたことでホストファミリーとはかなり良い関係を築けることができた。正しい英語を考えすぎて、相手と話すことができなくなるのではなく、失敗しても間違っているでもいいから相手と話したいという姿勢を見せることはとても大切なことだと感じた。

6. 反省点・課題

反省点は、授業中に英語をもっと使うべきだったということだ。コロナ禍ということもあり、クラスはほぼ日本人だった。同じ日本人同士で英語を話すというのは変な感じがするが、そこで英語をもっと使っていればより伸びたのではないかと感じる。課題としては、単語力の向上と短い定型文を覚えることが課題と感じている。今回身につけた英語力を落とさないことと、今の英語勉強に対するモチベーションをキープすることも課題だと感じている。留学後もホストファミリーや現地ですべた友達と連絡を取り合い、英語を少しでも使っていきたいと思う。

7. 謝辞

今回の留学先であるニュージーランド国立ワイカト大学の先生方、accommodation office の方々、そして留学の手続きから留学中のサポートまでしてくださった新潟国際情報大学の学務課や留学担当の先生方、本当に有難う御座いました。何よりも、留学に行くことに許可を出してくれた両親に感謝しています。コロナの影響により、本来大学 2 年生で実施されるアメリカ留学ができませんでした。コロナ禍で留学をすることは厳しいと考えていましたが、たくさんの方々の協力もあり、今回ニュージーランド国立ワイカト大学に留学できたことはとても嬉しかったです。新潟国際情報大学からの奨学金、そして海外留学支援制度について紹介していただいたことはとても助かりました。たくさんの方々から支えられて、今回の留学をすることができました。今後も周りへの感謝を忘れずに、様々なことに取り組

んでいきたいと思います。この度は本当に有難う御座いました。

8. 留学日誌

〈交通手段〉 バス、電車、タクシー、Lime

・バス

多くの人はオービターというバスを使って大学に来ていた。ホームステイ先によっては乗り換えを行わなければいけない場合もある。平日は15～20分間隔でくるのでとても便利だった。休日は最終バスの時間がかなりはやいのでチェックが必要。オービターに限らずバスはたくさんあるのでどこかに出かけるときはバスを利用して。Google マップではなく、バスの時刻とその時のバスの位置情報を見ることができる Transit というアプリがおすすめ。バスを乗るにあたって Bee カードがとても便利。基本的に1～2ドルなので安いのだが、Bee カードを使うと学割が利くので0.5ドルでバスに乗ることができる



・電車

ニュージーランドの電車は日本とは違い驚くほど遅い。バスよりも料金は安いがとても遅いので場合によってはバスのほうがいい。電車の走っている時間もあまり頻繁ではないので、乗ることはなかった。

・タクシー

一度も乗ることはなかったのですが値段などはわからないが、街には多くのタクシーがいたので待つことなく利用できるのではないかと感じた。

・Lime

Lime とは電動キックボード（スクーター）である。どこでも乗り降りできるので町中のあらゆる場所に置いてあり、アプリのダウンロードさえすればだれでも利用することができる。料金も1分間1ドル以下なのでバス停が遠い場合や近くに用がある時は便利。



〈ホストファミリーとの休日〉

今回の留学で友達やホストファミリーと多くの場所を訪れた。その中でも思い出に残っているところをいくつか紹介する。

10月21日～24日 Cooks Beach

金曜日の午後から、祝日の月曜日にかけてホストファミリーと2人の娘さん家族みんなで Cooks Beach (ハミルトンから約3時間) という北東にあるビーチに行った。一日に3回も海に行っていた。砂浜は砂のところもあれば、貝殻の砂浜もあってとても綺麗だった。10月だったので水温はかなり冷たかったが海に入った。ライフジャケットを着て洞窟を泳ぎに行ったり、パドルボートをししたりした。



11月25日～27日 Napier & Taupo

ホストファザーの親戚の結婚式のために Napier (ハミルトンから約4時間) に行った。ファザーの兄弟が集まるホームパーティーに行き、たくさんの人と交流することができた。私と一緒に住んでいた留学生は結婚式には参加せず、水族館やビーチなど様々な観光地に行った。ホテルではなく、キャラバンという車にけん引するキャンピングカーのようなところで寝泊まりをしていた。中にはキッチンやダブルベッド、トイレ、シャワーなど小さな家のような感じでとても楽しかった。泊まっていた場所は目の前が海でいい所だった。帰りには Taupo という大きな湖が有名なところにも行くことができた。

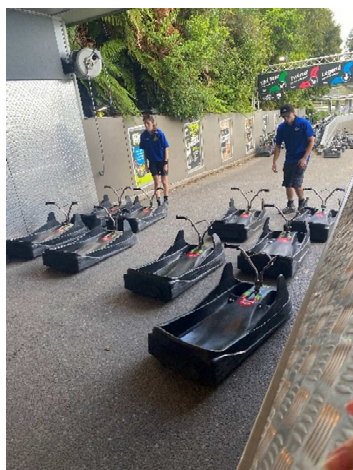


12月23日～31日 Tauranga

このホリデー期間は Tauranga (ハミルトンから約2時間) にホストファミリーと2人の娘さん家族で行き、約10日間ビーチでキャンプをした。Napierの時と同じキャラバンと大きなテントを2つで寝泊まりをした。毎日ビーチでパドルボードをしたり、泳いだりしていた。後半はホースライディングも体験することができてとても面白かった。クリスマスのは時はファザーの家族もビーチに遊びに来て賑やかだった。このホリデー期間はたくさん話す機会があり、自分でも英語力が向上したと気づけるくらいだった。



1月中はホストファミリーと娘さん家族と一緒にロトルア (ハミルトンから約1時間半) や友達と一緒にフェリーに乗って Devonport に行った。ロトルアでは山の上から坂を下るゴーカートなどのアクティビティを楽しんだ。Devonport ではフェリーからの景色がとても綺麗だった。



まとめ

この留学で普段の生活や旅行を通してホストファミリーや大学でできた友達と仲良くなることができた。ニュージーランドはたくさんの自然があり、町も綺麗で自分が思っていた以上に治安がいい町だった。ニュージーランド人の話す言葉は聞き取りづらいこともあるが、

とても親切な人が多かった。日本とは違い自然を楽しむ人が多いので新しい体験をすることが多くてとても新鮮だった。他の場所に留学したことはないが、心配していたアジア人差別などもなく、自然に囲まれていてとてもいい所なのでおすすめしたい。